

「心の渇きに注意」

ヨハネの福音書4章1～42節

1



2

渇き、疲れた神

- 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いスカルというサマリヤの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は第六時ごろであった。ヨハネ4:3-6

3

疲れ、渇いた神

- あなたは知らないのか。聞いていないのか。【主】は永遠の神、地の果てまで創造された方。疲れることなく、たゆむことなく、その英知は測り知れない。イサヤ40:28
- そこで、子たちはみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。ヘブル2:14-15

4

疲れ、渇いた神

キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

ピリピ 2:6-11

5

父のみこころを行うために

- 主はユダヤを去って、またガリラヤへ行かれた。しかし、サマリヤを通って行かなければならなかった。ヨハネ4:3-4
- そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろされた。時は第六時(正午)ごろであった。ヨハネ4:6
- ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください」と言われた。ヨハネ4:7

6

ひとりのサマリヤの女性のために

- そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうしてサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」—ユダヤ人はサマリヤ人とつきあいをしなかったからである— ヨハネ4:9
- イエスは答えて言われた。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれる者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでしょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」 ヨハネ 4:10

7

ひとりのサマリヤの女性のために

- イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出します。」 4:13-14、7:39(聖霊)
- 女はイエスに言った。「先生。私が渇くことなく、もうここまでくみに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」 4:15

8

ひとりのサマリヤの女性のために

- イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」女は答えて言った。「私には夫はありません。」イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もったもです。あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あなたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」女は言った。「先生。あなたは預言者だと思えます。4:16-19

9

ひとりのサマリヤの女性のために

- 私たちの父祖たちはこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。 4:20-23

10

ひとりのサマリヤの女性のために

- 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」 4:24-26

11

イエス様の証人となった

- このとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話しておられるのを不思議に思った。しかし、だれも、「何を求めておられるのですか」とも、「なぜ彼女と話しておられるのですか」とも言わなかった。女は、自分の水がめを置いて町へ行き、人々に言った。「来て、見てください。私のしたこと全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょう。」 4:27-28

12

イエス様の証人となった

- さて、その町のサマリア人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこと全部を私に言った」と証言した。その女のことばによってイエスを信じた。そこで、サマリア人たちはイエスのところに来たとき、自分たちのところに滞在して下さるように願った。そこでイエスは二日間そこに滞在された。そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。そして彼らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じているのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っているのです。」
4:39-42

13

もっと大きな大切な渇き

- 「あなたの言っていることが**本当でなければ**、どうでもいいことだ。しかし、あなたの言っていることが**本当ならば**、他のすべてのことがどうでもよくなる話だ。」(E・スタンレー・ジョーンズ)
- 「信じられない?」「信じられないほど素晴らしい話＝真理、福音」
- 「人の心には、神の形をした空洞がある。神がそこに入るまでは人は満足できない。」

14

もっと大きな大切な渇き

- わたしの民は二つの悪を行なった。**湧き水の泉であるわたしを捨てて、多くの水ためを、水をためることのできない、こわれた水ためを、自分たちのために掘ったのだ。** イレミヤ2:13
- 「鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえぎます。**私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。」** 詩篇42:1-2
- 水から出てしまった魚。水に戻らなければ。

15

私たちの渇きを満たすために

- この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就するために、「**わたしは渇く**」と言われた。 ヨハネ19:28
- 聖書は求道の書ではなく、求人の書。**求神(真)している人間が、求人している神と出会う書物。**
- 十字架のイメージは両手を広げた主の招き
- 「**すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。**」 マタイ11:28

16

私たちの渇きを満たすために

- 一人の女性が、民族紛争、偏見、差別、社会的に仲間外れ、引きこもり、満たされない人生、、、イエス様によって変えられていく。
- イエス様の証し人、女性宣教師に!
- 私たちのすべてを知っているにもかかわらず、愛してくださっている主。
- 私たちのために、人となり、疲れ、渇き、悲しみ、苦しみ、辱められ、十字架で死んでくださった主。
- 三日目に復活され、今も生きておられる主。

17

霊的「水分補給」を忘れずに

- 主は、水やパンを使って、神との関係が命であることを教えて下さっている。
- 「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。」 マタイ4:4
- 「わたしの言うことを信じなさい。」 ヨハネ4:21
- 「心の渇き」に注意し、しっかりと「水分補給」をしながら、主と一つよに生きましょう。(主以外のものに、熱中してしまう、「熱中症」にも気をつけましょう!)

18